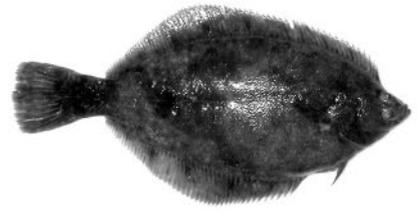


マコガレイ

Pleuronectes yokohamae

地方名
くろがしら（八戸、陸奥湾）、
まがれい（陸奥湾、日本海）



生態

- ①寿命：約10年
- ②成熟：3歳以上
- ③産卵期：陸奥湾では12月～翌年1月
太平洋では1月～3月
日本海では3月～4月
- ④産卵場：水深10～60mの砂泥域
- ⑤分布：北海道南部以南から大分県付近、朝鮮半島南部、東シナ海
- ⑥生態：通常は水深100mより浅い砂泥域に生息。
食性は珪藻類、橈脚類、貝類、アミ類、ゴカイ類、甲殻類。

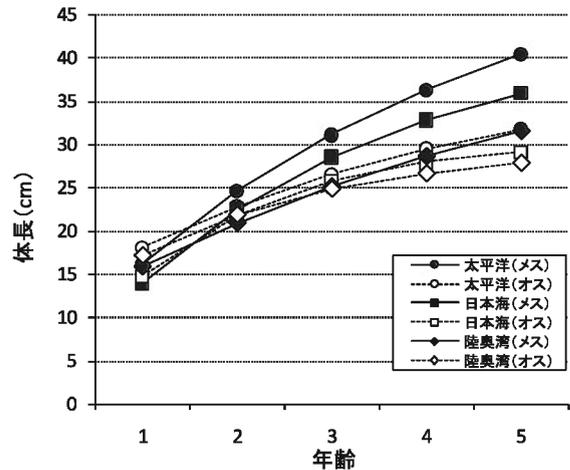


図 青森県におけるマコガレイの成長

主な漁業

底建網、さし網、底びき網で漁獲される。主漁期は太平洋と陸奥湾では12月～翌年2月、日本海では1月～4月で2歳から漁獲される。

漁獲の動向と資源の水準

青森県全体では、平成20年の557トン进行ピークに減少傾向が続いており、平成26年は311トンであった。漁獲金額は、平成8年の4.4億円进行ピークに減少が続いており、平成26年は平成8年以降で最低の1億2千万円にとどまった。

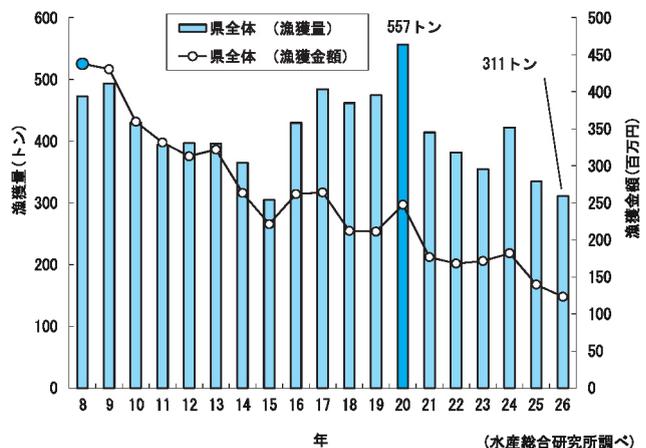


図 青森県におけるマコガレイの漁獲量及び漁獲金額の推移

<p>太平洋</p> <p>漁獲の動向 減少</p> <p>資源の水準 <input type="text" value="中位"/></p>	<p>津軽海峡</p> <p>漁獲の動向 減少</p> <p>資源の水準 <input type="text" value="低位"/></p>
<p>陸奥湾</p> <p>漁獲の動向 横ばい</p> <p>資源の水準 <input type="text" value="中位"/></p>	<p>日本海</p> <p>漁獲の動向 横ばい</p> <p>資源の水準 <input type="text" value="中位"/></p>

海域別漁獲量及び漁獲金額

海域別漁獲量は、太平洋では平成20年の324トン进行減少傾向で推移し平成26年に156トン、津軽海峡では平成9年の90トン进行徐々に減少し平成21年以降は横ばい傾向であったが平成26年は平成25年に引き続き減少し20トン、陸奥湾では平成21年に減少した後は横ばい傾向で平成26年は97トン、日本海では平成22年の29トンから平成25年の59トンまで増加傾向を示していたが平成26年は38トンに減少した。

漁獲金額は、全ての海域で平成8年または平成9年进行漸減傾向にあり、津軽海峡、陸奥湾、日本海では平成8年以降で最低となった。

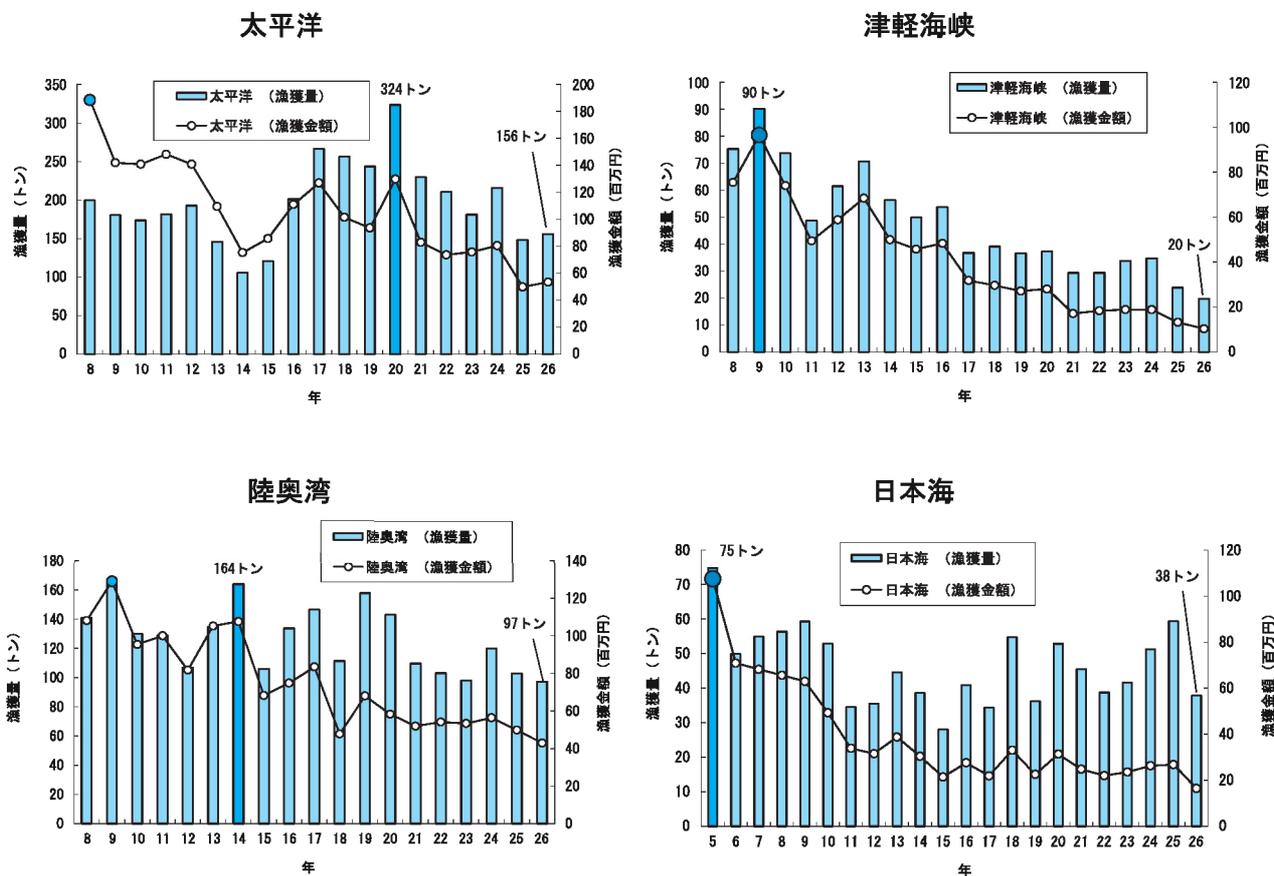


図 青森県におけるマコガレイの海域別漁獲量及び漁獲金額の推移（水産総合研究所調べ）

資源を上手に利用するために

○マコガレイ資源管理計画（平成13年3月）

・全長20cm未満個体の再放流、かれいさし網の目合制限（3.5寸以上）を定めている。

☆上記の取り組みを継続することが必要である。

トピックス

- ・本県に分布するマコガレイは、産卵期が太平洋、陸奥湾口、陸奥湾奥、日本海でそれぞれ異なり、遺伝的にも異なる（日本海区水産研究所）。
- ・野辺地町漁業協同組合では平成23年度から、車力漁業協同組合では平成24年度から、水産総合研究所への委託事業としてマコガレイの種苗放流事業を継続して行っている。